

自己評価書

四日市市立 四日市幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	丈夫な体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○園内で自然に親しむ機会を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内に季節を感じることでできる樹木があることを活かし、興味関心が持てるようにしてきた。花を咲かせたり実をつけたり、良い香りを感じたりするなど幼児自身が気づき、木の実や葉を遊びに取り入れるようになった。また木々に来る蝶などの虫捕りをして飼育や観察することにもつながり、身近な生き物への興味関心が広がった。虫捕りをする中では、集中力や目と手の協応、体の様々な動きなど様々な力が育まれた。 ・畑や植木鉢で季節の野菜や花を育て、生長や収穫を喜ぶことができた。 <p>○戸外遊び、運動遊びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のびのびと体を動かして遊べるように、園庭やホールの環境設定を幼児の様子に合わせて工夫してきた。積極的に戸外でのびのびと体を動かして遊ぶことを楽しむようになり、体を動かす心地よさを味わうことができた。 ・竹馬、竹ぼっくり、縄跳び、固定遊具などに繰り返し取り組めるように関わってきた。やってみようとする意欲が育ち、できた喜びを十分に味わうことができた。 ・鬼ごっこなど遊びが分散すると発展しにくいことがあった。教師の援助、教材研究や環境について工夫してきた。 <p>○食べ物の興味関心の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の栽培活動を通して、収穫して食べる経験ができ、また収穫祭では具材を考えたり、買い物に出かけたりする経験もできるようにし、食への関心が高まった。 ・苦手な食べ物がある幼児は、給食で友だちと同じ物を食べたり、友だちの姿に刺激を受けて食べてみようとするようになった。 <p>◇アンケートでは、「自然の変化に気づけるようになりましたか」「嫌いなものでも食べようとする姿がみられますか」「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の項目で約90%の保護者から、「体力がついたと思いますか」の項目では全保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。引き続き、興味関心が深まるように幼児の姿に合わせた教師のかかわりや環境設定を工夫していく。</p>	
重点目標2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○コミュニケーション能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人一人の気持ちを丁寧に受け止め、伝えたい思いや言葉をつなぎ合わせながら関わってきたことで、自分の思いを教師や友だちに言葉で伝えることができるようになってきた。今後は相手の話を聞こうとする意欲や相手の思いに気付いていけるようにしていくことが大切である。 ・マスクをしているため、顔の表情がわかりにくくコミュニケーションが取りにくいことがあった。色々な工夫をしてきたが、難しさを感じた。 ・地域の方との交流は少なかったが持つことができた。親しみを持つことができ、とてもよい機会となった。 <p>○道徳性や規範意識の芽生えを培う活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で遊びや生活を共にする中で、自然と関わられるようになり、憧れの気持ちを持ったり、思いやる気持ちを持ったりすることができた。 ・相手の気持ちに気付いたり、言っではいけないことやしてはいけないルールがあることなどに気付く経験を繰り返すことで、良いことや悪いことがわかるようになってきた。また、自分で考えて行動できるようにかかわってきたが、引き続き丁寧にわかちあっていくことが必要である。 <p>◇アンケートでは「自分の思いを体や言葉で表現するようになりましたか」の項目で全保護者から「そう思う」「ややそう思う」という高い評価を得た。しかし「よいことや悪いことがわかるようになりましたか」「人の話を聴こうとしますか」の項目では、保護者の評価が、昨年度同様にやや低かった。人の話を聴くことの大切さを感じ姿勢や態度が身につくように継続して取り組んでいく。</p>	

重点目標 3	地域・家庭との協働（子育て支援の充実）	3
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の姿に合わせた関わりを丁寧に行ったり、家庭との連携を深めたりしてきたことで、手洗いうがい、衣服の着脱や身の回りの始末など身に着いてきた。個人差があるので、引き続き日々の積み重ねを大切にしていく。 自ら挨拶をすることや返事をするのが難しい姿がある。自分からしようとする意欲が育つように、また習慣となるようにしていく。 <p>○保護者との連携の充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 登降園時や懇談会で園での姿や遊びの様子、家庭での様子を共有した。また保護者の思いや願い等を聴き保護者の思いに寄り添い、ともに成長を支えられるようにしてきた。職員間で共有し、保育について共通理解して進めることができた。 コロナ禍で行事などが十分に行えない状況もあったが、保護者の理解・協力を得ながら、時間設定や内容の工夫をしようすることができた。 <p>◇アンケートから「自分から日常のあいさつができるようになりましたか」の項目で保護者の評価がやや低かった。保護者と連携しながら、個々に応じて継続して取り組んでいく。一方、「あなたは園の教育内容に満足していますか」の項目では94%の保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。今後も保護者との信頼関係を大切に取り組みを進めていく。</p>	

重点目標 4	教師の役割（教育活動の充実）	4
主な方策 成果と課題	<p>○心が動く遊びの充実を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の興味関心を探り、コロナ禍であっても可能な教材や環境の工夫をしてきたことで、幼児が自ら考えたり、試したりする遊びの充実ができた。また、教師も遊びの一員となって一緒に楽しむことを大切にしてきた。引き続き、様々な遊びを楽しみ、充実できるように工夫していく。 どの幼児も幼稚園生活を楽しみ、喜んで登園していることは日々の関わりでの成果であると実感する。 <p>○一人一人に合った援助のあり方を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人に丁寧にかかわり、適切な援助の在り方や大切にしていくことなどを職員全体で話し合い、日々模索しながらかかわってきたことが大きな成長につながっている。 時には幼児自ら動き出すことや幼児同士のかかわり合いを見守ることも大切にしていける。 <p>◇アンケートから「お子さんは園が好きで登園を喜んでいますか」「園の生活や遊びが楽しいと言っていますか」「遊びの種類や生活体験が増えましたか」「遊びを試したり工夫したりして遊びますか」の4項目で全保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。引き続き、幼児一人一人の姿や発達に応じて遊びを通して指導できるように幼児理解に努めていく。</p>	

2 改善方針

<p>重点目標 1 食育活動では、家庭と連携したり、絵本等の教材を活用したりするなど、より推進していく。</p>
<p>重点目標 2 コロナ禍で、人と触れ合うことが難しい状況ではあるが、園外の場所や人との交流も可能な範囲で行っていく。</p>
<p>重点目標 3 保護者の思いや願いを大切に、更に連携を深めていく。</p>
<p>重点目標 4 教師のかかわりでは、幼児の姿や時期・状況などを振り返りながら保育を進めていくことを大切にしていきたい。幼児の姿に合った教師の役割、援助の在り方を職員間で連携を深め、考えていく。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	コミュニケーション力のある幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・言葉よりも手が出たり、人の嫌がる言葉を言ってしまうたりする幼児がいる。その時には何が伝えたかったのかを丁寧に聞き取り、言葉での伝え方を知らせてきた。感情を図表にしたもの(ちくちく言葉、ぼかぼか言葉など)を利用してきたことで、少しずつ自分の気持ちを言葉で伝えられるようになってきた。・困った時に自分から言えず、周りの大人や友だちからの働きかけを待つ幼児が多い。どうすればよいのかを考え、周りに自分の気持ちを発信できるよう取り組んできた。少しずつ主体的に周りの環境に関わろうとしたり、気持ちをだしたりする姿がでてきた。・日々の遊びの中で、幼児同士でやりとりをするごっこ遊びや自分たちでルールを考えていく遊びをたくさん経験する中で、想像する楽しさや適切な言葉や表現方法が体得できるようになってきた。	
重点目標2	幼児の姿・発達にあった教育・保育の工夫	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・クラス集団の中でも“個”を大切にする保育を心がけている。一人一人の姿を見守る中で、どんな力を育みたいか、そこに向けてどのような関わりが必要なのかを常に考えるようにしてきた。・幼児同士が互いを認め合えるような関係作りを目指す中で「自分が大好き、周りも大好き」と思えるような関わりを保育の根底に置きたい。・前日の幼児の姿から、次の日にも遊びの続きが出来るような環境を作るようにした。そうすることで自ら遊ぶ姿や「今日もあの遊びをしよう」と期待をもって登園してくる姿が増えた。・遊びが転々とする姿もみられた。一人一人の幼児の興味を探り、環境準備をするのが必要である。・幼児の姿を丁寧に見て、一緒に遊ぶ中で何を求めているのかを見極めていく。刺激に過敏な幼児に対しては、落ち着けるスペースを設け、過ごせるようにしてきた。・幼児の”興味のある遊び”に適した教材を用意したり、幼児と一緒に考えながら材料を準備していくことで、自分のしたい遊びを実現させていく楽しさや、友だちとイメージを通わせて遊ぶ面白さを感じることが出来た。	
重点目標3	小中学校、地域との交流の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染症拡大のため、交流する機会を設けることが出来なかった。しかし、戸外で活動している時や、園外へ出かけた時など地域の方々と会った時には挨拶するように声をかけてきた。日頃から挨拶の大切さを伝えるようにしてきたが、なかなか自分から挨拶をする姿には繋がっていないように感じる。・引き続き、こ小中の繋がりを大切にしながら、長い目で幼児の成長を支えていけるようにしていきたい。	

重点目標 4	子育て支援活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が不安に思うことや気になっていることを、日ごろから会話をする中で共有するようにしてきた。家庭と園での姿を共有することで、保護者も安心して園に預けられるように心がけてきた。 ・ 日頃から幼児の姿を丁寧に伝え、子育てが楽しいと感じられるようにしてきた。 ・ 年々、保護者の悩みや要望が増えていると感じる。その思いに気づき、共に考え、育てていくことを大切にしたい。保育者の思いを押し付けるのではなく、保護者が子育てをしていく手助けが出来るようにしたい。 ・ 日頃から何気ない会話も大切に、幼児一人一人と関わるのと同じように保護者一人一人と向き合うようにしている。保護者の思いを丁寧に受け止め、共に幼児の成長を見守っていけるようにしてきた。 	

2 改善方針

- ・ 体づくりをしていくために、運動遊びや環境の工夫が必要である。
- ・ 新型コロナウイルス感染症などにより、今まで通りに出来ない状況がある中、新しい視点に立ち、園一丸となって今できることを実践していくことが大切である。
- ・ 今ある環境の中で、安全に充実した教育・保育を行うためには何が必要なのか、どんな環境が大切なのかを共通認識したうえで、一人一人の危機管理意識を高めることが大切である。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富田幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	思考力の芽生えの育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○保護者アンケートから「遊びを試したり工夫したりして遊べますか」「自分がやりたい遊びを見つけて遊べるようになりましたか」「自分で考えて自分で行動するようになりましたか」という問いに対して、「そう思う」「おおむねそう思う」と答えた割合が100%であった。思考力の芽生えの育成を重点に遊びを通して「やってみたい」「なぜ」「分かった」「もっとやりたい」と感じられるように遊びの環境を工夫し教師のかかわり方を意識して取り組んできた。幼児が主体的に遊びにかかわる姿を受け止め、試行錯誤する機会を大切にできたことで、自信をもって取り組んだり、遊びへの興味、関心を広げていったりという姿が見られるようになった。</p> <p>◇幼児の生活経験は様々である。幼児一人ひとりの興味、関心を把握しながら、さらに必要な遊びの環境を工夫していく必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな心とたくましい体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○保護者アンケートから「体力がついたと思いますか」「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」「手洗い、うがいを進んでするようになりましたか」「自分でできることは自分でするようになりましたか」という問いに対して、「そう思う」「おおむねそう思う」と答えた割合が100%であった。</p> <p>○楽しく継続的に体を動かす機会を作るように取り組んできた。大勢で多様な体の動きを取り入れて遊ぶことができる鬼ごっこなどを、1年を通して継続的に楽しんできたことで積極的に身体を動かす幼児の姿が見られるようになった。</p> <p>○基本的な生活習慣については、一人一人の姿に合わせて、自分でしようとする意欲が持てるよう環境を整えたり励ましたり丁寧に指導したりして継続的に取り組んできた。特に手洗いやうがいは、幼児自身が意識して取り組むようになった。</p> <p>◇食育活動については、栽培活動や栽培したものを使って調理した物を園で食べる機会を通して食べ物への興味・関心を広げ、食べることの大切さについて取り組んだ。栽培したものを家庭に持ち帰り、家庭で調理するなどして食べ物に関心をもつ機会を作ってきた。初めて食べる料理を食べてみようとする姿が見られるようになった。個人差があるため今後も継続していく必要がある。</p>	
重点目標 3	共に輝く子どもの育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○子どもたち同士で考えたり、話し合ったりする機会を意識的に取り入れた。リレーやドッジボールや鬼ごっこ等ルールのある遊びを通して、チームで作戦を話し合ったり、ルールを工夫したりする機会を作ってきたことで、一人一人が自分の考えを出したり、聞き合ったりする姿が見られるようになった。また、運動会や発表会などクラスみんなで目的をもって活動することで、友だちの思いや考えなどを知ろうとしたり互いに力を合わせることや一緒にする楽しさを感じたりする姿が見られるようになった。</p> <p>◇幼児の表現の仕方は様々である。背景にある思いを理解し、一人一人の幼児が自分の思いや考えを安心して表現できる環境を作ることができているか、職員が共通理解して今後も丁寧にみていく必要がある。</p>	

重点目標 4	家庭、地域との連携・協働の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>○富田ならではの地域に根差した行事や教育活動の継承について、遊びの中で四日市市や地域のキャラクターにかかわるダンスや人形劇を楽しんだり、地域の祭りに使う鯨船を運動会で活用するなどした。</p> <p>○地域を散歩し、幼児の生活に身近な店や公園や神社、鉄道等をめぐる機会を作り、親しみが感じられるようにしてきた。さらに、その経験を写真や地図で展示し、視覚的に振り返り思い出となるようにした。地図や写真を見て地域のことに関心をもって語り合ったり、散歩の体験を再度共有し合う姿がみられるようになった。</p> <p>○家庭との連携については、送迎時の保護者との会話や子どもの様子を写真で掲示して伝えるなど子どもの姿を共通理解して進めていくことができた。</p>	

2 改善方針

○幼児が主体的に遊びにかかわり、考えたり工夫したりして夢中になって遊べる環境を作るために日々の幼児の姿を振り返り、教材研究と環境構成を繰り返し、評価することを積み重ねていく。月一回の園内研修を通して、職員が共通理解する。

○基本的な生活習慣については、個人差があり、一人一人に合わせて指導していくことが必要である。家庭と連携をし、幼児の生活を理解しながら継続的に先の見通しをもって指導していく。

○幼児一人一人の表現を認め安心して自分を表現できる環境を作るために、一人一人との信頼関係を深め、幼児同士の関係を深めていく手立てを全職員で共有し指導していく。

自己評価書

四日市市立 海蔵幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(方策) ○幼児の興味関心を広げ、試行錯誤を巡らす保育環境の工夫 ○幼児がやりたいと思ったことをやり遂げるための組織づくり</p> <p>(成果と課題) ・幼児が考え合う場を仕掛け、「またやってみよう」と思える遊びを大切にしてきた。また、幼児の興味関心を探り、一緒に遊んだり試したりしながら幼児のつぶやきを丁寧に拾い、環境の工夫に努めた。その中で、幼児自ら動き出す力や「またやってみよう」という姿につながり、遊びの場や経験を広げることができた。 ・園内研修や日々の話し合いの中で、幼児理解を深め、一人一人に合わせて丁寧に合わせたことで、幼児が主体的に遊ぶ姿につながった。 ●今後も園内研修の内容をより充実させ、幼児理解を深めることに努める。 ●一人一人の幼児の発達や興味関心に合わせ、いろいろな道具や素材を準備することで自ら動き出し夢中になって遊ぶ姿につなげていく。 ●4・5歳での交流の機会や遊びの中でのかわりを大切にする。</p>	
重点目標 2	たくましい心と体を育む活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策) ○幼児があきらめずにやり遂げる達成感、自信を育む ○体を動かす楽しさを味わえる環境の工夫</p> <p>(成果と課題) ・日常生活や遊びの中でふと触れてみたくなる環境を、戸外やテラス、ホールなどに設定したことで、体を使って遊ぶ機会が増えた。幼児が体を動かす楽しさを味わい、意欲的に取り組む姿につながった。 ・教師が幼児と共に体を思い切り動かしたり、ダイナミックに遊んだりすることで戸外遊びが好きな幼児が増えた。遊具などにあきらめず挑戦しようとする姿が見られた。 ●コロナ禍の中、遠足の機会が減った。今後、園外保育の機会をつくることを意識に留め、幼児の歩く経験を増やすことに努める。 ●中には遊具への恐怖心を持つ幼児や体幹が弱い幼児もいる。遊びの中の小さな積み重ねを見直して、いろいろな動きを経験し体づくりをしていく。</p>	
重点目標 3	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>(方策) ○自分の気持ちを「わかってもらう」「聞いてもらう」「受け止めてもらう」喜びが味わえる場を大切にし、互いの気持ちを受けとめ合える関係づくり ○挨拶の推奨</p> <p>(成果と課題) ・教師は、幼児一人一人の気持ちを受け止めながらかわった。そのことで、自分の気持ちを表情やしぐさ、言葉などで伝えることができるようになった。 ・幼児同士で考え合う機会を設けたり、葛藤する姿を捉えたりし、伝え合う場を大切にされた。自分の気持ちや考えを伝えようとする姿や友だちの気持ちを汲み取り代弁する姿が見られた。 ・自ら挨拶をするには恥ずかしがる姿が見られるが、大人からの声掛けで挨拶する姿が増えた。 ●今後も室内遊びの機会や環境の充実に努め、職員間で幼児の姿を共有し幼児同士のかかわる力につなげていく。 ●挨拶では、大人が手本となって行い、心地よさや大切さを伝え習慣づくようにしていく。教師は率先して、保護者や来園者に挨拶をし、積極的な姿を示していく。</p>	

重点目標 4	地域との連携と子育て支援の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(方策) ○自分たちの住んでいる地域を知り自然や地場産業に触れる ○保護者との連携を図る</p> <p>(成果と課題) ・窯業研究所の原っぱでの遊びや万古焼き体験、どんぐり拾い、地域の方との栽培・収穫での交流などを通して地域の自然、伝統産業に触れることができた。 ・コロナ禍の中、中止、変更になる行事があった。その時々の中、保育参加・参観の機会を保護者の声を聞きながら検討しすすめた。 ・遊びの中で学びに向かう過程を、動画視聴、掲示物で、保護者へ伝える場をつくることができた。 ●今後も保護者や地域の方が、園の取り組みを見る機会、子育ての楽しさを味わう機会を工夫していく。 ●地域・保・小・中との交流は、幼稚園の良さである。その良さが実感できる機会を工夫して作っていく。 ●教師自身、地域の自然環境や人について、積極的に知ることに努めていく。</p>	

2 改善方針

○体づくりにつながるように、遊びの充実を図る。また、いろいろな動きを経験できるような環境の工夫と教師の援助を継続していく。

○保護者も巻き込み徒歩通園の推進をしていく。

○戸外遊びだけでなく、室内遊びについても環境を充実していく。

○挨拶については、職員が積極的に幼児、保護者、来園者に行い、モデルとなっていく。

○コロナ禍の中でも地域の人に親しみを感じ、感謝の気持ちをもてるような取り組みを工夫し、計画していく。

○園内研修や人権研修などの充実を図る。その中で、幼児の育ちや発達課題について理解を深めるとともに、教師自身の人権感覚を磨いていく。そして、一人一人の発達や特徴に寄り添ったかわりをしていく。

自己評価書

四日市市立 泊山 幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	4
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>・基本的な生活習慣の定着 ・思いきり体を動かして遊ぶ ・自然に触れ合う感動体験 ・友だちと一緒に協同する体験</p> <p><成果> ・登降園時の身支度、手洗いうがいなどの生活習慣において、身の回りのことを自分で行おうとする姿をしっかりと認め、習慣を積み重ねてきた。自信を持って行動する幼児が増え、基本的な生活習慣が定着してきたと感じる。 ・体を動かす楽しさや夢中になって遊ぶ体験ができるよう、一人一人の発達を考えた環境構成を工夫してきた。戸外遊びを好む幼児も増え、体を思いきり動かして遊ぶ意欲的な姿が見られる。保護者アンケートでは「体力がついたと思われる」の項目で97%が「そう思う」という評価を得た。</p> <p><課題> ・コロナ禍での園外保育活動の取り組みが難しく、歩く経験や園外の豊かな自然環境に触れる機会が少なかった。 ・密接、密集を避けるため、年長児のグループでの話し合いや当番活動の役割が少なくなり、お互いに自己を表現し、伝え合う場が制限されてしまった。</p>	
重点目標2	高い自尊感情を持つ幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>・あいさつの推進 ・思ったこと、考えたことを伝える、表現する ・受け入れ合える仲間づくり ・異年齢や地域とのかかわり</p> <p><成果> ・教師がすすんで挨拶をし、幼児との会話のやりとりを大切に、「どうぞ」「ありがとう」などのコミュニケーションを意識してかかわってきた。自分から「おはよう」や「ありがとう」などの挨拶が身についてきたと感じる。 ・遊びの中で、幼児同士や教師が「おもしろい」「楽しい」など感動を共感し、言葉や表情で気持ちを伝えあってきたことで、自分の思いを素直に表現する幼児が増えた。クラス内でも思いを受け止め合える関係になってきたと感じる。 ・異年齢で運動会や発表会に向けた取り組みを見せ合ってきたことで、憧れの気持ちや自分が成長した実感を感じることができた。異年齢で交流する機会は少なかったが、それぞれのクラスで交流の振り返りなどの話をし、充実感を感じていた。</p> <p><課題> ・園内では挨拶をするようになってきたと感じるが、保護者アンケートでは「自分から挨拶ができるようになりましたか」の項目で13%の方が「あまり思わない」という評価となった。様々な生活場面に応じ、進んで挨拶ができる取り組みが課題となった。 ・保育園や小学校、中学校との交流において、持ち方の工夫を模索したが実現には至らなかった。</p>	

重点目標 3	地域・保護者との連携を密にし、協働する教育の推進	3
主な方策 成果と課題	<p><主な方策>・地域、保護者とともに協働できる教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の工夫 ・子育て支援の充実 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、直接的に保護者の方と話をする機会が少なくなったが、おたよりやホームページ、降園時のお知らせボードで発信をしたり、感染対策を施し、個別懇談会を持ったり連携を図った。保護者の方の協力が有り、数少ない行事ではあったが園児と保護者が楽しく参加する機会がもて、幼児の成長と一緒に感じる事ができた。 ・教育のねらいや大切にしたいことの周知を図った。保護者アンケートでは、「子どもが園に楽しんで通っている」「園生活の経験が成長につながっている」「幼児期にしかできない体験を友だちと一緒にできる」など成長を喜んでもらっている意見をいただいた。 ・子育て支援では、遊び会を週1回行い、戸外で遊んだり、時間を制限したりして、感染対策を考え、工夫した。毎回、喜んで参加しているという声をいただいている。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携では、コロナ禍の現状では交流が持ちにくく、“地域を知る”直接的な機会が難しかった。 ・様々な現状が家庭を取り巻く中、保護者の方の不安な気持ちは常にあると感じる。家庭とともに考え、ともに喜び合える関係を大切に、教育の充実につなげたい。 	

2 改善方針

<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍である状況の中でも、園内にある自然環境や様々な遊具を再度確認し、園にある環境を生かした活動内容を工夫して取り組んでいきたい。 ・グループ活動や当番活動のねらいを明らかにし、自己発揮できる場面を考え、環境を整えるなどの工夫をしていく。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶では、園内と家庭内とでは幼児の姿も少し変わるようで、今後も家庭とともに挨拶の取り組みを続けていきたい。挨拶をする気持ちよさやコミュニケーションの第一歩を伝えていきたい。 ・直接的な交流が持ちにくくなったため、オンラインでつながりを持ったり、手紙を送るなど間接的な交流の工夫を考えていきたい。今後は、交流のもち方について、保育園や小・中学校とも話しあい、引き続き連携をとっていきたい。 <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方を招いたり、地域に出向いたりすることが難しかったため、今後は地域の特色を職員が学び、幼児に伝えていけるようにしていきたい。自分の周りには、地域の方の優しい見守りがあり、地域の中で育っていることを実感できるようにしていきたい。 ・保護者の方が安心して子育て相談ができるよう、職員全体で話しやすい雰囲気を作っていく。思いを大切に受け止め、一緒に悩みを考えられるようにしていきたい。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○4歳児は、楽しく体を動かして遊び、繰り返し楽しむ中で体力がつき、友だち関係も広がっていった。5歳児はみんなで遊ぶと楽しいという経験が体を動かす意欲へとつながった。鬼ごっこやドッジボール、サッカーなど、自分たちで誘い合い、積極的・継続的に楽しむ姿が増えた。</p> <p>○一人ひとりに応じたきめ細やかな配慮を根気よく行った。苦手な食べ物も食べてみようとする姿が見られ、食への関心、意欲を高めることができた。</p> <p>○年間を通して手洗いうがい、食事、睡眠など、基本的な生活習慣の定着について家庭との連携を続けてきた。その結果、感染対策にもつながり、欠席者が少なかった。</p> <p>○徒歩通園の意義を機会あるごとに伝えてきた。保護者の理解が深まり、幼児たちの歩く力を伸ばすことにつながった。</p> <p>◇今後もどの時期にどんな力をつけたいのかを話し合い、意図的に運動遊びの環境を構成し、年間を通して計画的に取り組んでいく。</p> <p>◇栽培活動や収穫体験を通して、野菜が育っていく過程、生長に興味関心を持つことや、食への意欲を高めることへとつながるような言葉がけをしていく。</p>	
重点目標 2	コミュニケーション力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児へのかかわり方について、年間8回(講師招聘4回)の事例検討を行い、「なかまづくり」の視点で課題を共有した。自己肯定感が高まり、あたたかい人間関係が見られる場面が増えた。</p> <p>○話すことが認められる喜びが、目で、耳で、心で聴くことの姿勢につながるようにより一対一、グループ活動、クラス全体と等の場面で丁寧にかかわった。共感的雰囲気大切にすることで、気持ちを安心して言葉や態度で表すようになった。5歳児は、互いの意見を取り入れようとしたり、幼児同士で問題を解決しようとしたりする力が育まれていった。</p> <p>○絵本の魅力や読み聞かせのよさを、講演会などを通して家庭にも啓発することができた。</p> <p>◇挨拶をする時、相手から声がかかるまでしようとしなかったり、顔を見ないでしたりする姿が時々見られた。保護者アンケートでも「自分からしようとしなない」という意見があった。教師自身が手をとめ、顔を見て丁寧に挨拶を交わす気持ちよさを感じられるよう積極的に取り組んでいく。</p> <p>◇コロナ禍でふれあい遊びやスキンシップなどがとりにくく、心をほぐしあう活動への工夫が必要と感じることもあった。</p>	
重点目標 3	学びにつながる意欲の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○幼児の興味や遊びを見つめ、自ら挑戦したくなる魅力ある環境を、感染対策をしながら柔軟に整えていくことができた。また、一人ひとりのやってみようという気持ちや気づき、つぶやきを見逃さずかかわり、学びにつながる過程を大切にしてきた。</p> <p>○コロナ禍で園外に出かける機会が減ったので、実体験が増えるよう幼児が園内で見つけた自然物を遊びに取り入れていく環境を大切にしたい。園庭に落ちている葉っぱや実、昆虫など、自然環境に興味関心を持ち、四季折々の変化に気づくことができた。</p> <p>○運動会や発表会などの行事で、幼児がやりたいと思ったことやアイデアを多く取り入れて作り上げていったことで、より意欲的に活動する姿が見られた。</p> <p>○幼児が作った物、挑戦する姿、認め合う姿などをクラス全体で紹介したり知らせたりすることを継続して行った。自尊感情が高まり、何事も積極的に取り組むことが増えた。</p> <p>◇図鑑だけでは調べるのが難しいものもあった。タブレットも積極的に活用して知りたいと思ったときにすぐに調べられるようにし、幼児の興味がより深まる工夫をしていく。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携・協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○地域のはげまし隊の方に畑の管理や園庭遊具の補修、遊具の作成などをしていただいた。地域の方をはじめいろいろな人がかわり、支えてくれていることを知るよい機会となった。</p> <p>○竹馬や竹トンボなど、地域の方にお世話になった材料に思いをはせながら保護者とともに作り遊ぶ活動を取り入れた。地域に親しみを持つ機会となり、幼児の経験の幅も広がっていった。</p> <p>○親子遠足で地域の公園へ出向く機会を作った。自分たちの住む地域の自然に親しみ地域の中で安心して子育てできる喜びを感じてもらえた。</p> <p>○子どもの姿や活動の内容を写真や文書で毎日伝えたところ、親子の会話の場が増え保護者と子どもの成長を喜び合うことができた。また、ホームページで園の様子を知らせ、幼稚園教育への理解が深まるよう、更新回数を増やした。</p> <p>○5歳児は、クラスだよりで小学校に向けてつきたい力や大切にしたいことを伝えるようにした。小学校を意識して幼児にかかわる保護者の理解・協力が見られた。</p> <p>◇保護者に、幼児の姿、体調などを丁寧に伝え、安心して集える園づくりを進めてきた。今後も職員間で連携しながら、安心安全な園づくりに努めていく。</p> <p>◇今年度も小学校中学校との直接的な交流はできなかった。しかし、中学校から吹奏楽のDVDを届けていただき年長児が視聴した。小学校交流や給食体験なども映像を通して知る機会をもつなど、小学校への期待が膨らむ機会が持てるように連携していきたい。</p>	

2 改善方針

<p>【重点1 健康な心と体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園庭遊具を見直し、目標を持って根気よく楽しく取り組むことが、幼児の達成感につながるよう意図的に計画に組み込んでいく。 ・教材を活用した食育活動を進め、食への興味関心を広げる取り組みを行う。自分の体を作る大切な食材であることを意識できるよう、取り組みを系統的に進めていく。 <p>【重点2 コミュニケーション力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶を交わし合う心地よさを感じられるように、教師自身がモデルとなる。教師との信頼関係を築くことを第一にしながら挨拶を奨励していく。また、挨拶の大切さを保護者にも啓発し、大人が率先して挨拶していくことで生活の中で習慣づいていくようにする。 ・異年齢の交流が難しくなっている中でも、互いの遊びや人とのつながりが深まる環境や保育を、工夫しながら取り入れていく。 <p>【重点3 学びにつながる意欲の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートの「自分のことは自分でしようとする」については、ほかの項目より低めの評価だった。保育参観などでねらいを明確に示し、保護者とともに実感できる取り組みをしていく。 ・幼児の成長、発達を的確に把握して環境構成していけるように幼児理解を深め、保育技術を高める。意欲を持ち、更に遊びが深まり継続していくような援助の在り方を探り実践していく。 <p>【重点4 保護者・地域との連携・協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児一人ひとりの特性や家庭環境への対応や支援などを職員間で共有していく。 ・コロナ禍で地域との交流が減っているので、地域と相談しながら新しい交流の仕方や行事の持ち方を考え合い、保護者との連携も重点に置きながら模索していく。 ・交通マナーを学ぶ機会を園で積極的に、計画的に取り入れ、実施していく。 ・オンラインによる研修を活用し、全職員が学び合い、高め合う機会を工夫していく。園内研修で話し合ったり、研修の還流報告をしたりして、教師自身の資質向上を図る。今後も幼児の発達に応じた保育内容や援助の在り方について話し合い、よりよい教育実践ができるようにする。

自己評価書

四日市市立 川島幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	心身ともにたくましい子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 追いかけて遊びやボール遊び、固定遊具など、いろいろな遊びを通して身体を動かして楽しむ姿があった。特に5歳児は、竹馬・雲梯・跳び箱などに根気よく取り組み、できるようになる嬉しさを感じたことで様々な遊びへの意欲につながった。保護者評価においても「体力がついた」「体を動かして遊ぶことが好き」と肯定的な評価であった。集団遊びやルールのある遊びを楽しむ姿も見られるようになってきたので、クラス活動にも様々な遊びを意図的に取り入れて、集団で楽しめる経験も重ねていく。</p> <p>・ 室内にも身体を動かして遊べる環境（トランポリン・太鼓橋・巧技台など）を幼児の姿に合わせて、継続的に設定したことで身体づくりにつながった。教師自身が遊びや遊具で経験できる動きがどのような力につながるのか理解して環境設定を工夫していく。</p> <p>・ 栽培活動を通して、自分たちが育てた野菜を収穫する喜びを感じることができた。コロナ対策により園内で調理する経験はもてなかったが、家庭に持ち帰り、家での姿を聞かせてもらうことで、家庭とつながって食育活動を広げることができた。年間の栽培の計画や土づくりなど、教師自身が主体的に推進していく必要がある。</p> <p>・ 基本的な生活習慣においては、その必要性に気付かせたり、自ら丁寧に行おうとする幼児の姿を認めたりしながら、根気よく取り組んできたことで、自分の力でやりきろうとする姿勢が身についてきた。「あいさつ」や「手洗い・うがい」では、園外でもすすんでできるよう、今後も家庭と連携して取り組んでいく。</p>	
重点目標2	心を動かし、遊びに夢中になる子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 幼児一人ひとりの思いを受け止めたり、教師が読み取ったりしながら、教材・空間を工夫し、「やってみよう」という意欲や、幼児自身が考えたり試したりすることを大切にしてきた。目的をもって遊ぶ幼児が増え、友だち関係も広がってきた。保護者評価では、「園生活や遊びが楽しい」「やりたい遊びをみつけて遊べるようになった」という項目で肯定的な評価をいただいている。</p> <p>・ 幼児の感じる遊びの楽しさや心地よさに共感してきたが、遊びに偏りがあったり、幼児同士のみでは遊びの継続が難しかったり、遊びが広がりにくかったりし、教師が主導になる場面もあった。少人数園のため、幼児同士が刺激を受け合いながらイメージを広げ、遊びを展開していくことの難しさがあるが、教師も遊びの仲間になりながら、幼児の考えや意欲を支え、達成感や充実感を味わうことができるようにしていきたい。今後も、幼児が何に興味をもち、楽しんでいるかを見極めながら具体的な支援方法や関わり方を工夫していく。</p>	
重点目標3	自分らしさを発揮し、豊かな関わり合いがもてる子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>・ 4、5歳児の混合保育を行うことで、園生活のいろいろな場面で異年齢の関わりを深めることができた。4歳児は、自分の思いを出せるよう教師が寄り添い、イメージ豊かに遊びを楽しんできたことで遊びが広がった。友だちに思いを伝えたり、聞いた時には我慢したりすることも経験し、友だち同士のつながりができてきた。5歳児は、人数が少ない中で同じ場で過ごす心地よさや安心感をもとに遊びや活動をすすめてきた。日々の生活や様々な行事を経験し、一人一人の表現や頑張りを認めてきたことで自信につながり、幼児同士の関わり合いが深まってきた。</p> <p>・ 支援を必要とする幼児との関わりについては、場所を共有したり、一緒に遊んだりできるよう環境や教師の関わりを工夫してきた。教師自身が豊かな関わり合いを意識していくことが、幼児同士のつながりに影響するため、教師がモデルとなっていることを更に意識して関わっていく必要がある。</p>	

重点目標 4	地域や家庭との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る。	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度もコロナ禍により、保育参観や保護者とともに行う予定の行事を行うことが難しかった。少人数だからこそ、個々への声掛けなど丁寧なかかわりができ、保護者に安心感もあったと思う。おたよりや日々の姿をボードに記したり、写真を印刷して掲示したり、具体的な幼児の姿や成長について保護者と共有し、共に考え合うことを大切にしてきた。 ・年間を通してテラスに職員の絵本のおすすめコーナーを設置した。絵本だよりを年3回発行したり、月に1回親子で絵本を借りる機会をもったりし、親子で絵本に親しむ機会を増やすことができた。 ・地域の保幼小中学校や遊び会との交流は中止になることが多かった。交流の意味やねらいを園内で考え合うことや、どのような内容ならば可能なかを検討する機会をもつ必要がある。 ・地域の方と幼児との直接的な関わりは少なかったが、はっさく狩り、サツマイモ掘り、竹ぼっくりや竹馬の材料の協力、廃品回収への協力など、地域の方に見守りとご協力を頂き幼児の活動を充実させることができた。幼児からのお礼のプレゼント作りなど、幼児が地域とのつながりを感じ感謝の気持ちを表現する機会ももてた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・集団遊びが継続して盛り上がり、広がったりすることがやや少なかった。幼児の興味や遊びの読み取りについて、園内研修を計画的にもち、自分の見方や考え方を見直したり、手立てを考えたりしながら、言葉かけや環境設定など、見通しや共通認識をもって保育に取り組めるようにしたい。 ・特別な支援を必要とする幼児に関する保育・教育の研修を計画的に取り入れ、また共有する必要があった。教師間での理解や支援を共有しながら、保育内容や仲間づくりについて考え合っていく。 ・コロナ感染状況により、計画していたことが延期・中止になったり、内容が変更になったりと臨機応変な対応が求められる1年だった。感染対策を行う中でも、幼児に経験させたいことや、つけたい力を育むために、どのような方法や手立てがあるのか、工夫できることはないか、今後も職員間で話し合いを深めていきたい。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 神前幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊び込む環境づくり	4
主な方策 成果と課題	幼児の興味関心がどこにあり、何を楽しんでいるかを話し合い、幼児が自主的に遊びはじめ、創意工夫できる環境づくりに努めた。幼児の「やってみたい」という気持ちに教師が寄り添い、共に遊びを楽しんできたことで、自ら意欲的に遊ぶ姿が増えてきた。幼児が好きな遊びだけでなく、様々な遊びに興味を広げられる環境づくりを工夫していきたい。	
重点目標2	コミュニケーション力を育む	4
主な方策 成果と課題	同じ年齢の保育園児と共に過ごすことで、幼稚園、保育園の垣根を超え、大人や子どもとコミュニケーションを取り豊かな人間関係の中で過ごすことができた。入園の頃はまず教師との関係作りを重視し、初めての場所で安心してすごすことを目指した。そのことが周りの児への興味や活動への意欲につながった。自分の思いを言葉で表現することに繋がるようにと、まず、こども理解に努め、教師が聞くことを大事にした。徐々に自分の思いを相手に言葉や態度で伝えるようになっていく。	
重点目標3	健康な心と体を育む	3
主な方策 成果と課題	園庭工事の中、遊具を使用しての体づくりは難しかったが、ホールで体を動かせる場を用意したり、園外へ散歩に出たり、小学校の校庭を使わせていただく等工夫して活動していった。鉄棒や縄跳び等保育者や友だちと誘い合って楽しんで挑戦する姿がみられるようになった。食育では夏野菜などの栽培活動を行い、自分たちで育てたものを皆で食べる活動を通して、食べる意欲に繋がった。	

重点目標 4	人権・同和教育の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>人推3名と一緒に話し合いながら、神前幼稚園・神前保育園どちらの園の児についても、集団の中でお互いが尊敬し合える関係になっているかを軸にしながら保育してきた。自分の保育実践を話したり、聞いたりすることで様々な角度から考えてきた。プラザの指導主事と連携し、将来を見通して人権・同和保育教育の充実に今後も務めていきたい。</p>	

重点目標 5	家庭や地域とともに進める教育活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>地域の方々との交流の場をもつことは難しかったが、小学校校庭、児童集会所、曾井山等、地域に出て、人と出会ったり自然に触れ、実体験からの教育活動の充実に努めた。家庭とのつながりはしっかり持てた。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの意欲に繋がる環境構成の工夫や教材研究を今後も続けていき、子どもの発達に合った保育内容を検討していく。 ・学びの基盤となる運動遊びの研修を行い、そのうえでも0歳児からの愛着関係作りは大事と学んだ。引き続き0歳からの系統立てた保育を考え、実践していきたい。 ・各々の個性を認め合い、自分も仲間も大切にする保育実践を目指し、尊敬し合える関係作りを大事にしていく。様々な園での経験や考え方を具体的な保育活動に対して意見交流し、同僚性を高めていく。 ・今後も保護者と共に子どもの成長と課題を考え合える信頼関係を築いていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	夢中になって遊びこめる環境の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 幼児の興味、関心を捉え環境を設定したことで、自ら遊びをすすめていくなど意欲的に遊ぶ幼児の姿につながった。・ 遊びの中で教師も入りながら思いを伝え合う場を大切にすることで、友だちと工夫して遊んだり、思いを伝え合いすすめていったりする姿につながった。・ 少人数であるが、グループで一緒にする遊びを取り入れ、工夫していくことで友だちと一緒に遊ぶ楽しさや充実感を感じることができた。・ 4、5歳児が混ざり合いながら遊ぶ場をつくっていくことで、異年齢の交流も深めていくことができた。	
重点目標2	思いを伝え合ったり、共感しあったりし、互いを認め合う幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 一人一人の思いを受け止め、安心できる環境をつくっていくことで、自分の思いを言葉やしぐさなどで伝える姿が見られた。・ 思いを伝え合う場を遊びの中やクラス活動の中でつくっていき、幼児になげかけていくことで、相手の思いに気づき、共感したり、言葉をかけたりするようになった。・ 言葉だけではなく、表情やしぐさなどいろいろな表現で友だちを受け止めながら、共感する姿が見られた。	
重点目標3	友だちと一緒に思い切り体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 体の様々な部分を動かす遊びを経験できるように環境を設定していくことで、体を動かす楽しさを感じたり、自分から挑戦したりする姿が見られた。・ 竹馬や縄跳びなど継続的に経験できるようにすることで、意欲的に取り組み、達成感を味わうことにもつながっていった。・ ドッジボールやおにごっこなど集団遊びをクラス活動の中で経験できる場をつくることで、自らの時間にも友だちを誘いながら楽しむようになった。・ 学期ごとに幼児に経験させたい遊びを園内で話し合うことで計画的に経験させることができた。・ 研修に参加することで幼児に経験させたい体の動きなどを学ぶことができたので、さらに保育に活かしていく。	

重点目標 4	楽しく豊かに自然と関わる幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方にも協力していただき、小動物の飼育ができた。幼児も愛着がわき、興味にもつながっていった。 ・ 園内外の畑で計画的に野菜の栽培をすすめていくことで、幼児が生長を楽しみにし育てた野菜を食べることで、食への興味にもつながっていった。 ・ みかん狩りや城山公園・毘沙門天への散歩など園外活動を通じて、その季節ならではのものに触れ、自然と関わる経験ができた。 	

2 改善方針

- ・ 遊びがどのような育ちにつながるのか教師間で園内研修を深め、さらに保護者に発信していくようにしていく。
- ・ 園内研修で具体的な遊びの場面を捉えながら、幼児の遊びの中の学びについて検討することができた。引き続き遊びの写真を用いたりなど研修方法を工夫しながら、検討し、実践していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	夢中になって遊ぶ<学ぶ>教育・保育内容の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○ 園内研で「育ちのプログラム」を中心に遊びのエピソードを取り研修した。子どもの姿をもとに環境構成を行ってきた。それが意欲的に遊びを楽しむことにつながり、心身ともに伸びやかに活動する姿が多く見られるようになってきた。その中で互いの頑張りを認め合い、励まし合いながら遊びを継続するようになり、自尊感情の高まりにもつながった。</p> <p>○ 子どもの発想を大事にし、イメージに沿った環境構成や教材準備を行ったことで、ごっこ遊びが盛り上がり、友だちとの関係性に広がりや深まりがみられた。廃材も含めた様々な素材に触れることで、道具の使い方や素材の有効な活用法も遊びを通して身につけ、自分で作ったものに愛着を持ち遊びも発展していった。</p> <p>○ ビジョンアンケートで登園を喜び、遊びを楽しんでいる、園の教育に満足しているという項目は思う、そう思う回答が100%であった。今後もより遊びを楽しめるような環境構成や広い園庭の有効活用を職員間で考え合い、保育を展開したい。</p>	
重点目標 2	健康で安全・安心な生活の保障	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 必要性に気づき自分の健康を守るためにマスク着用や手洗い、うがいなども継続して自ら行う姿もあり、子ども達の中にもwithコロナの生活が定着しつつある。今後も継続していきたい。</p> <p>○ コロナ禍でも計画的に園外保育を行えるようになり、地域の様々な場所に出かけることで、地域の自然の豊かさに触れたり自然物を遊びに取り入れる場面も増え遊びの幅も広がり、地域への興味関心の深まりにもつながった。歩くことで基礎体力も増進され、自然に触れることで心が豊かになり創造性の高まりにつながっている。ビジョンアンケートでも保護者からの満足度がうかがえた。</p> <p>● 子ども達なりに考えて行動している姿を認め、子どもが行動を起こすのを待てる保育教諭でありたい。言葉かけは最小限で心地よく響くように意識したい。</p>	
重点目標 3	特別支援教育・保育の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 今年度はあけぼの交流、保護者の依頼による保育所等訪問交流を受け入れ、研修を深め、内容を職員間でも還流し情報を共有し合っ、子ども達と向き合うことが保護者のこども園に対する理解へとつながり、職員の学びを深め合う機会となっている。</p> <p>○ 保護者の思いを十分に聞き、ともに子どもの成長を願って連携を続けたことが子どもの成長につながり、一緒に喜び合えたことが一人一人の意欲につながっていった。保護者からも保育教諭の細やかで丁寧なかかわりに対する評価がアンケートに上がってきている。</p> <p>● 子どもの困り感を理解し、寄り添いながらそれぞれに合った適切な手立てや遊びの環境を整えていけるように研修や情報共有に努めたい。ビジョンアンケートの結果を踏まえて、保護者との連携を強化し子どもにつけたい力を明確にして、先の見通しをもって共に子育てを行えるように園内研修を深め保育、教育の質を高めたい。</p>	

重点目標 4	小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携と協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○ 今年度は昨年度に経験できなかったことを感染症対策を十分に行ったうえで実施できた。そのことは子ども達のやる気、意欲につながり、活動の盛り上がりを感じられた。今後も保護者をサポートしながら、様々な企画を立てて実施することで子ども達の活動意欲につなげる工夫を重ねたい。</p> <p>○ 公開保育を実施するにあたり、園内研でレポートを出し合い繰り返し子どもの姿や保育教諭の関わりを研修できたことが幼児理解の深まりにつながった。その姿をもとに登降園時などに保護者に伝えられたことでより保護者との連携が深まった。</p> <p>● 小中の公開授業や「育ちのプログラム」の事例研修はリモートで実施され良かったが、より深みのある研修となるように話し合いの内容や話し合う方法など工夫したい。</p>	

2 改善方針

<p>○ 夢中になって遊べる環境づくりをめざし、皆で工夫しあって環境設定を行う。ワクワクドキドキするような魅力ある遊びを展開できるように努め、体験を通して心身ともに健やかな子どもの育成を行っていく。保育教諭も一緒に遊びを楽しみ友だちとの関係が自然に深まり広がりを持つよう工夫していく。また、今後も園外保育を計画的に実施し、地域の豊かな自然に触れたり自然の中で遊びを楽しめるよう工夫を続けたい。</p> <p>○ こども園の取り組みをクラスだより、園だより、クラス前の伝言ボード、ホームページなどを活用してより分かり易く明確に保護者や地域の方に伝えて活発な意見交換を行いその意見を反映させた園づくりをしていくことで子ども達が安心して過ごせ、安全に活動できるこども園をめざして教育活動の改善を重ねながら展開していきたい。</p> <p>○ 各機関との連携と職員間のより確かな情報共有がとれるように園内研修の充実やリモート研修の有効活用について検討を重ね改善を図る。考えを分かり易く簡潔にまとめて発表する力を一人一人につけたり、伝言ノートのよりの確で分かり易い活用をめざし改善を続ける。</p> <p>○ 園内研での学びを自分のかかわりや、言動に返し日々の保育に活かしていくことで子ども達の成長につなげていきたい。また、今後も振り返り続けながら保育を継続したい。</p> <p>○ 家庭背景の厳しい乳幼児の継続的な登園に向けてより一層の細やかな支援と専門機関との連携を継続し、必要に応じた迅速な連携を続けたい。</p>
--

【様式 1】

自 己 評 価 書

四日市市立 下野幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>・年間を通して計画的に園外保育を実施した。5歳児の友だちの家巡りでは、地域の探検地図を作る目標を持ち、達成することができた。計画的な園外保育の結果、歩く力、体力、持久力がつき、冬の寒い時期も風邪などでの欠席者が少なかった。また、地域の身近な自然、場所に触れ、かかわることができた。</p> <p>・サーキット遊びや固定遊具を計画的に保育に取り入れた。跳ぶ・わたる・まわる・登る・ぶらさがるの動きにポイントを置き、回数を重ね、高さや内容に変化をつけてきたことで、多様な動きができるようになった。また、指先を使う活動では、発達を見通しながら、幼児の興味関心、季節に合わせ、年間を通して取り組んだ。そのことにより、今まで興味がなかった幼児が積極的に取り組むようになり、苦手な幼児も少しずつ挑戦する姿が見られ、できたという自信につながった。</p>	
重点目標 2	豊かな表現力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>・安心して園生活を送ることができるように、教師との信頼関係を築いてきた。教師は、幼児の様々な表現方法での思いの表出にしっかりと向き合い、受け止めることを第1に考えてきた。言葉で伝える事が苦手だった幼児の思いを、教師が代弁してきたことで、安心して園生活を送り、言葉が出るようになった。また、自分の気持ちをそのまま行動で表現する幼児には、本児のペースに合わせた活動内容に工夫してきたことで、友だちの遊びに興味を持ち、教師と共に遊ぶようになった。</p> <p>・『聞く・話す・伝えあう』活動では、教師が様々な場面で言葉を引き出すかわりをして、具体的な伝え方を知らせてきた。5歳児では、自ら描いた絵を友だちに見せながら物語を作り、クラスで聴きあう活動が幼児主体で始まった。また、クラスで相談し決める機会を設け話し合いを重ねてきたことで、自分の意見を伝えたり、友だちの意見に耳を傾けたりするようになった。しかし、トラブルや葛藤場面では、自分の気持ちを伝えることに時間が必要な幼児もいる。引き続き気持ちにしっかりと寄り添い、共に考え、心を支える関わりを継続していく必要がある。</p>	
重点目標 3	豊かな人間性を育み、人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>・『心に響く豊かな体験』では、地域環境を活かし、継続できる活動を模索しながら情報収集や計画を地域の人と共に進めてきた。「米づくり体験」では、地域の人と一緒に、田植えや収穫、脱穀の経験をした。収穫した稲穂の絵をじっくり見て描き、地域に展示したり、昔の脱穀機を見せてもらったりするなど、実体験からの学びの機会が広がった。この取り組みを通して、食べ物を大切にする気持ちや、たくさんの人に感謝しながら食事をする気持ちが芽生えた。</p> <p>・当番活動や誕生会の司会、発表会を通して、一人ひとりが自分の役に責任をもって取り組むようになり、クラスで協力し進めることの楽しさを感じられるようになった。また、自分の得意な事を披露する場面をつくってきたことで、友だちに教え、様々なことに挑戦するきっかけとなり自信につながった。</p> <p>・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんね」などの挨拶は、教師が率先してすることで、主体的に、教師と幼児、幼児同士することができるようになってきた。</p>	

重点目標 4	家庭・地域・保小中との連携	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降園後の保護者との会話の中で、保護者の思いを受け止めることに努めてきた。「保護者と共に子育てをする」という視点を、今後も職員一人一人がもちながら、共に幼児の成長を喜び、『幼児の育てほしい姿』を具体的に共有しながら、一緒に子育てを考えていきたい。 ・ 地域交流では、老人会の方々と「ポッチャ」を通して交流を深めることができた。地域の人のかいかわりに触れ、自分たちが大切に見守られていることを、幼児一人ひとり感じる事ができた。 ・ 保・小・中との交流がコロナ禍で少なかったが、西朝明中学校3年生の生徒から、園児全員に手紙をもらった。幼児が自ら「返事を書きたい」と願い、手紙を書き、中学生と交流を持つことができた。中学生へのあこがれの気持ちや、自分が大きくなることへの期待をもつことができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度、年度当初に、体力づくりへの取り組みの年間計画を作成し、多様な動きの経験が楽しみながら行えるようにしていく。年間計画を、さらに月案・週案に盛り込み、取り組んでいく。 ・ 職員同士が常に情報共有を行い、幼児一人ひとりの姿を捉え、『目指す子どもの姿』を想像しながら全職員でPDCAサイクルに努めてきた。今後も、それぞれの幼児に適した具体的なかかわり方を全職員で考えていく。 ・ 来年度も、年間を通しての園外保育の計画を立案し、充実を図っていく。 ・ 下野地区の保幼職員間での情報交換や職員交流を充実させ、幼児同士の交流を深めていく。
--

自己評価書

四日市市立 羽津幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びを通じての学びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○幼児が意欲的に遊びたいと感じる環境構成を工夫する ○アスレチックコースや遊具を活用して体力づくりをする ○栽培、食を通して自分の体への関心を持てるようにする <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製作コーナーでは、幼児が自分で考えたり工夫したりして、それまで経験したことを活かせるようにしてきた。その中で友だち関係が広がったり、試行錯誤しながら作る楽しさを感じたりすることができた。 ・幼児が興味を持っていることや、やってみたいことを探り、それに合った遊びの環境を作り、そこからごっこ遊びや運動遊び、集団遊びにつながるようになってきた。そうすることで意欲的に遊びに取り組み、友だち同士で遊びを工夫する姿が見られるようになった。 ・園内外の自然環境を生かした遊びを通して、感じたことを表現したり、共感したりすることが、幼児にとってどのような学びになるのか明らかにしていく。 ・固定遊具やサーキット遊びを通して、友だちと認め合ったり、喜び合ったり、やり方を伝え合ったりしてきた。その後、自信を持っていろいろな遊びに取り組み、体を動かして遊ぶ楽しさを十分感じながら体力づくりにつなげることができた。 ・幼児の体づくりを意識していろいろな場面で取り入れてきた。今後も幼児の育ちを見通し、普段の生活の中でも継続して身につくようにしていく。 ・栽培物の生長や変化に興味を持てるようかかわったり、育てたものを自分の手で収穫したり、食べたりすることで食への関心が高まった。 	
重点目標2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遊びや生活の場面で、自分の思いを表現する楽しさを感じる ○互いを知り認め合い、クラスで考えあう機会を持ったりする ○遊びを通し、友だちとふれあう楽しさを感じられるようにする <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児が安心して自分の思いが出せるよう、教師がしっかりと受け止めるようになってきたことで、自分なりの表現で思いを出せるようになった。気持ちが伝わる楽しさや安心感を感じることができた。 ・遊びを通して互いの思いを出し合い、気持ちを合わせて遊ぶ楽しさを感じることができた。 ・いろいろな場面で様々な感情を経験した時、個々の思いを受け止めてきた。さらに言葉で気持ちを表現したり、伝えたりすることを意識していく。 ・友だちに思いを伝えたい時、教師が仲介し丁寧に伝えてきた。次第に友だち同士意見を出し合い、自分たちで考えて解決していこうとする姿が見られるようになった。 ・リズム遊びやふれあい遊びを通して、友だちと一緒に遊ぶ楽しさ、触れ合う心地よさを感じることが出来た。コロナ禍で異年齢のかかわりが少なくなっているため、今後も計画的に行っていく。 ・年長児から年少児へ遊びや経験を伝えていく機会を作ることで、相手にわかるように伝えようとする姿が見られるようになった。また友だち同士で協力して遊びを作り上げていく経験ができた。年少児は憧れを持って遊びに参加したり、再現したりして遊びを展開することができた。 	

重点目標 3	地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者と話すことで、子どもの育ちを共に考えていく ○おたよりやHPを通して遊びの姿や育ちを保護者に発信していく ○幼児理解や具体的な支援を検討し、実践する <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と日常的に話をし、関係づくりをしてきた。園や家庭での姿を知ることで子どもの育ちを共に考えてかかわることができた。 ・コロナ禍で園庭開放を中止していた時期などは、降園後に保護者と話をする時間が限られており、一人ひとりの姿を十分に伝えることが難しかった。 ・たよりやHPで園生活の様子を伝えるようにした。幼児の育ちを保護者と共感したり、幼児の学びを発信したりできるように、園内研修の中で、幼児理解や遊びを通しての学びについて明らかにし、そのための環境構成や援助の手立てなどを具体的にしてい く。 ・遠足や散歩などを通して地域の方と挨拶をする機会があり、温かく見守ってもらっているというつながりを感じられた。 ・専門機関や地域の学校園と連携を取り、幼児の姿や発達に合わせた支援を学び、活かしていくことができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても混合クラスとしての育ち合いの場を確保し、保育内容や遊びの環境設定について再検討していく。 ・幼児が経験したことをもとに、幼児が環境を再構成できるような設定の仕方の工夫をしていく。 ・日常的な職員間の話し合いや遊びの様子を写真を使い見える化してまとめ、継続して考えていくようにする。 ・体づくりや環境構成など課題別にテーマを設定し、PDCAサイクルに当てはめ保育実践をとり、園内研修の内容を充実させていく。 ・コロナ禍においても、人とかかわる機会や学びの機会を持てるように、オンラインを活用したり内容を工夫したりしていく。 ・家庭と連携しながら、幼児が興味を持って楽しみながら体作りをしていける活動を取り入れていく。 ・保護者参加の行事が少なく、十分に園での姿を見てもらうことが少なかった。降園時間を有効に活用し、幼児の育ちや保護者の思いを職員と伝え合えるようにする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びの充実を図る	4
主な方策 成果と課題	<p>○保育環境の見直しと設定</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児が興味を感じる遊びの環境を工夫し、自ら選んで遊び始める姿を援助する工夫をしてきたが、自分のやりたい遊びがなかなか見つけられない幼児の姿もあった。そのため、幼児と一緒に楽しんだり、やりたい遊びを探ったりし、子どもたちが「やってみたい」「おもしろそう」と感じる場の設定を続けてきた。すると、教師と一緒にいることで安心して遊びを楽しむ姿や、友だちを誘い合って遊びだす姿が増えた。・体を動かす経験の少ない幼児の姿や体の使い方がぎこちない姿があり、遊びながら身体づくりが出来る環境の充実を図った。自分から挑戦できるような環境を継続的に整えることで、何度も繰り返し挑戦する幼児の姿が見られた。今後も楽しみながら身体づくりを継続していく。・初めてのことに消極的になる姿があった。まずは不安な気持ちをしっかりと受け止めることで安心して取り組める場を整えていった。また、全体での活動でも取り入れながらやってみたことで安心して始められる環境を整えていった。	
重点目標2	自己表現する力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>○自分の思いを表現したり、友だちの話を聞く態度を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none">・まずは幼児一人一人の気持ちをしっかりと受け止め、「気持ちを出してもいい」という安心感や信頼関係を築いていった。少しずつ自分の気持ちを言葉で表現していくことができるようになってきている。・人前で話すことに緊張をしたり、自信が持てず積極的になれない姿があった。まずは少人数の前で話すことから始め、自分なりに表現したことを認めてきた。自分の思いや考えを話す場の設定を継続していく。・1・2学期は話を聞いてもらう経験に重点を置き、3学期は話を聞くことにも焦点を当てていった。聞く時の姿勢等も知らせながら進めている。	
重点目標3	家庭・地域との連携を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○子どもの姿を共有していく</p> <ul style="list-style-type: none">・登降園時に一日の姿を話したり、家庭での話を聞きながら共通理解を図ることを大切にしてきた。今後も視野を広く持ちながら、家庭との連携を進めていく。・コロナ禍ということもあり、地域の方との交流する機会をなかなか持てなかった。園外へ出た時には挨拶を交わしたり、園での様子を発信しながら交流を図っていく。	

2 改善方針

- ・「自ら選んでする活動」について、職員同士で日々の子どもの様子を共有していくことで、様々な案を出し合い進めていくことができた。
- ・コロナ禍ではあるが、子どもたちに経験させたいことや子どもの様子などを定期的に話し合う場として、園内研修を定期的に確保し、PDCAサイクルがスムーズに働くようにしていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大矢知幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	コミュニケーション力を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none">・遊びや生活の場面で、自分の気持ちを言葉で伝える機会を作ってきたことが、具体的に自分なりの表現で伝えようとする姿につながってきた。・遊びや生活の中で困った時や問題が生じた時、幼児同士で考え合ったり伝え合ったりすることを大切に考え、かかわってきたことで、幼児たち自身で解決しようとする姿が見られるようになった。・コミュニケーション力の基盤は信頼関係が土台であることを職員間で共有した。幼児たちが自己表現する姿を十分認めたことで、感情が豊かになってきた。・園児たちのコミュニケーション力について実践検討をする中で、職員間で、言葉の引き出し方や促し方など共通理解でき、意識して保育する機会となった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・コミュニケーション力は一人一人異なるので、それぞれが友だちの思いを知ろうとしたり、気持ちの通じることのうれしさを感じたりできる体験をしていきたい。・コロナ禍で、園外の人と交流する機会を持ちにくく、今後地域などいろいろな人とのかかわりを持てるようにしたい。	
重点目標2	体力のある子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児一人一人の特性に合わせた体づくりを計画し、環境を設定することで幼児自身が進んで戸外で体を動かす喜びにつながった。・園庭の固定遊具（ブランコや、雲梯、鉄棒、ジャングルジム等）や、自分なりに目標をもって挑戦できる遊び（なわとび、跳び箱等）を取り入れたことで達成感を味わい、またチャレンジしようという意欲につなげることができた。・手洗いうがいなど、必要性や重要性を繰り返し伝え、自分からしようとするように働きかけたことで、習慣として身についてきた。・食べ物が体づくりをしていることを絵本やおたよりなどで知らせる中で、苦手な食材にも挑戦したり、家庭でも意識することが増えた。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・マラソン活動なども取り入れ、早寝早起きの啓発を行ってきたが、個人差もあり今後も家庭への働きかけが必要である。・コロナ禍ではあるが可能な中で、園外保育に出かけ「歩く」経験を多くできるように、来年度以降もカリキュラムに定期的に位置付けていきたい。	
重点目標3	感性豊かな子どもを育てる (遊び込む中で充実感や達成感を感じる)	4
主な方策 成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none">・職員全体で、幼児理解に努め、幼児一人一人の興味関心に寄り添い、環境や援助を計画的に考えてきたことで、幼児の感性を揺さぶり、充実した生活を提供することができた。・幼児自身が主体性を持って遊びを楽しむことで、自分の思いや考えを自信を持って発揮するようになった。・幼児たち自身が遊びを作り出す過程を大切にしてきたことで、友だち関係に深まりも見られるようになった。・家庭ではメディアを介しての幼児も多いので、五感で感じられるよう自然物を取り入れて遊ぶ環境を設定してきた。自然の変化に興味を持ち、のびのびと表現し、感性豊かに遊ぶ姿も見られるようになった。 <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児から出てきた遊びをさらに発展させ、見通しを持ちながら、環境を再構成し、設定や援助をしていきたい。・園児数が少なくなってきたことで、教師の役割を考えていく必要がある。幼児が主体的に遊ぶことができるよう柔軟なかかわりを考えていきたい。	

2 改善方針

(コミュニケーション力を育てる)

・コロナ禍で地域や中学校区など交流が難しい中ではあるが、方法を工夫しながらリモートなど活用し、年間計画に組み込み、園外の人とかかわる機会を大切にする。

(体力のある子どもを育てる)

・教師自身が生活習慣リズムが子どもたちに与える重要性と知識を学び、保護者がお便りや講演会等を通して生活リズムの有効性について知る機会を作り、家庭と園が連携するなかで子どもたちが健康な体作りができるようにしていく。

(完成豊かな子どもを育てる)

・コロナ禍で、行事や活動が変更することも多く、本来できる経験ができなかった点もあり、次年度に向けて、どう保障していくか年間計画に副案を持ちながら進めていきたい。

・育てたい子ども像を教職員で共通理解することで、教師の役割を考え、集団で経験できる体験を重要と考え、必要な援助や環境を検討していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷中央幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくりを推進する	3
主な方策 成果と課題	<p>○「自分が大切にされているという安心感」がすべての生活の基盤になると考え、一人一人の気持ちや表現を受け止め、認め、寄り添ってきた。幼児も自分の思いを言葉や表情、全身の表現で素直に出せるようになってきている。</p> <p>○幼児同士、認め合う声かけやあたたかい雰囲気がある。</p> <p>○基本的生活習慣を身につけるために、その都度子どもたちに声かけを行ってきた。園生活においては活動の切り替わりごとに手洗いうがいを行ってきたため、習慣が身につけてきている。</p> <p>○サーキット遊び、散歩等、時期やねらいに応じた体づくりができるよう環境設定を工夫してきた。楽しみながら色々な体の部分を使った活動を経験できた。</p> <p>●コロナ禍だからこそ、丁寧に手を洗うことの大切さを意識できるようにしてきたものの、家庭との連携が上手くとれずに習慣が身につくづらい幼児の姿も見られた。</p> <p>●体づくりにおいては、マラソンやなわとびを園全体で行う期間を設けて実施した。その期間が終了してしまうと体を動かす機会がなくなってしまう幼児も見られたため、幼児が主体的に行っていける活動を考えていくことが必要である。</p> <p>●コロナ禍の影響もあり、テレビ・動画・ゲーム時間の長さから生活リズムが身につくにくいという課題がある。</p>	
重点目標 2	遊びや生活に主体的にかかわり、集中して取り組む力を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>○幼児の自発的な遊びを大切にし、一緒に遊びを作りだしたり、幼児の思いが実現できるような援助をしたりしてきた。自分たちで工夫して遊びを広げていく姿や継続して遊びを楽しむ姿が見られるようになった。</p> <p>○自然豊かな園の環境を生かし、実際に見たり触れたりする体験をしたり、知的好奇心を育むような環境の工夫をしたりしてきた。自然や生命の不思議さや尊さに気づいたり、遊びや生活の中に取り入れたりする姿が見られるようになった。</p> <p>○幼児が興味を持ちそうな教材を用意したり、幼児がやってみたいと思っていることができるような環境を設けたりしてきた。幼児が自分の興味の持てることに集中して取り組む力が身につけてきた。</p>	
重点目標 3	人とかかわる力を養う	4
主な方策 成果と課題	<p>○4歳児、5歳児のペアを通して思いやりや憧れの気持ちが育ってきた。5歳児が4歳児を思いやる姿を通して、4歳児は自分が大切にされているという経験する機会となった。日々の遊びの場面でかかわる姿も増えた。</p> <p>○友だちとの遊びを通して、思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりできるよう援助してきた。友だちとの思いの違いを経験する中で、少しずつ自分の気持ちに折り合いをつけ、相手の気持ちも尊重しようとする姿が見られるようになってきている。</p> <p>○地域の方との温かな触れ合いや、地域に出かけ、自然や土地や歴史を知ることにより、地域への親しみがわき、地域で大切にされていることを感じる事ができた。また、地域の方々と交流することで、幅広い年齢層の人とかがわることができた。</p> <p>●様々な場面で上手く自分の思いや気持ちが表現しづらい時には教師が気持ちに寄り添いながら一緒に考え、相手にわかるように伝えてきた。今後も丁寧にかがわり、一人一人に伝える力を付けていく必要がある。</p> <p>●異年齢交流は普段の生活でたくさんしているが、コロナ禍のため、学年ごとで分かれることが多く、混合クラスよさを生かしきれない現状があった。</p>	

重点目標 4	様々なことに挑戦しようとする力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>○初めてのことに抵抗のあった幼児も、やってみたいと思えるような環境の工夫や幼児を認め、励まし、意欲をもって取り組めるようなかかわりを続けてきたことで、自信がついてきた。</p> <p>○幼児がやってみたいと思ったことを実際に経験できるような環境づくりに努めてきた。友だちと一緒に取り組んで、最後までやり遂げることを通して、成功体験を増やす機会となり、更に自信や意欲につながった。</p> <p>○友だちと一緒に挑戦できるようにかかわりを工夫してきた。難しいと感じていることにも、友だちの応援があり、最後まで挑戦しようとする姿が見られた。できた時にはクラス全体で喜び合う姿が見られるようになった。</p> <p>○戸外遊びを好む幼児が多く、全身を使ったかけっこ、ボール遊び、固定遊具遊び、竹馬、竹ぼっくり等、日常的に友だちと体を動かし、夢中になる姿が見られた。</p> <p>●自分の力でやってみようとするに関して、家庭との連携の難しさを感じた。</p> <p>●挑戦したい気持ちはあるが戸惑う幼児には、励ます、誘う等して教師と一緒に活動できるようにしてきた。今後も挑戦したいと思えるよう工夫していく。</p>	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の生活リズムやメディアとの付き合い方については、たよりや降園時の会話だけでなく、講演会の場を設けたり、保護者同士が話し合える場を作ったりするなど、啓発の工夫ができるとよかった。 ・ 異年齢のつながりを深め、互いに刺激し合えるように、学年ごとではなく、混合のグループでの活動を増やすなどの工夫ができるとよかった。 ・ 幼児が様々なことに挑戦する中での心身の成長を保護者に丁寧に伝え、家庭での変化や取り組みを十分に認めていきながら、共に幼児の成長の喜びを分かち合うことを継続していく。 ・ コロナ禍の影響で幼児の経験が不足してしまわないよう、今後も幼児の活動を工夫し、経験の保障をしていく。 ・ ビジョンを目指して職員全体でより取り組んでいくため、園づくりビジョンの重点目標について、各学期ごとに確認し合うことができるとよかった。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 桜幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	はずむ：心を弾ませる豊かな体験	4
主な方策 成果と課題	<p>○子どもが意欲的に遊ぶ環境づくり○興味や関心を広げ、好奇心を育む活動 ○感動体験を通して感性を豊かにし、表現しようとする力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児のしたい遊びを大切に、個々の幼児の思いを引き出して十分に楽しめるようにした。また、ホールや空き部屋を利用しながら、巧技台等で体を動かす環境や5歳児が自分たちでごっこ遊びを継続して楽しめる環境を整えた。この環境により幼児が自ら動き出し、様々なことに挑戦して意欲的に遊ぶようになった。 ・ 幼児が捕まえた昆虫やカブトムシなどの生き物を図鑑で調べて育てたり、水の流れや高低差を考える遊びや氷を作る実験遊び等、季節に応じた遊びを教師も共に楽しんだ。その関わりが、幼児の興味、関心を培い、自ら考える姿につながった。 ・ 教師が個々への丁寧な関わりを心がけたことで、小さな集団の中でも、幼児が異年齢と一緒に遊び、互いに楽しむためのルールを話し合い、考える姿につながった。 ・ 園の教育アンケートの結果においても、「遊びの種類や生活体験が増えた」「自分のやりたい遊びを見つけて遊べる」「遊びを試したり工夫したりする」という項目において、100%の保護者から「そう思う」と高い評価が得られた。 	
重点目標 2	うごく：やってみようとする力 動き出す意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○基本的な生活習慣の自立○園外保育の工夫○飼育・栽培・食育活動の推進 ○意欲をもち取り組む環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウサギや虫の飼育だけでなく、ヤギとの触れ合いや南部丘陵公園への遠足を通して生き物への興味、関心が広がり、命の大切さに気づく機会となった。 ・ 園外保育は、幼児の体力に合わせた計画を行い、時期を考慮し実施した。地域へ出かけ、どんぐり拾いやお店探検なども経験できた。 ・ 食育活動は、栽培・収穫した野菜を家庭に持ち帰り、家庭と連携した取り組みを行った。園内だけでなく、家庭での食育活動においても、苦手な野菜を食べようとする姿につながった。 ・ 手洗い、うがいなどの基本的な生活習慣の自立については、教育アンケートの「手洗い、うがいをすすんでする」の項目で、評価が思っていたより低かった。自分から進んで行うことや丁寧に行うことの必要性を確認していきたい。 	
重点目標 3	つながる：いきいきのびのび育ちあう 人とかかわり	4
主な方策 成果と課題	<p>○安心して自分らしさが発揮できる環境づくり○元気な『あいさつ運動』の推進 ○互いの思いや考えを伝え合い、気持ちが通い合う心地よさを味わう体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登降園時、教職員からの挨拶を積極的に継続し、また、保護者と挨拶運動を年に3回実施し啓発につながった。また、4歳児は名前を呼んで挨拶することで挨拶を交わす姿が増え、5歳児は自ら挨拶をするようになった。 ・ 幼児が安心して自分を表現して伝えられるクラス作りを心がけた。自分の思いをうまく言葉にできない幼児や、感情で伝えようとする幼児が、自分の伝えたいことに気づき、言葉で伝えるようになった。友だちの気持ちを考えたり、寄り添ったりする姿は見られるが、まだまだ教師の見守りや代弁が必要な場面がある。 ・ 昨年ではできなかった保幼交流を11月と12月に行った。また、川島幼稚園との交流保育、みかん狩り遠足を実施し、集団での活動体験の中で、様々な人とかかわって遊ぶ経験ができた。集団での活動を継続して保障できるような取り組みが必要である 	

重点目標 4	地域との連携・子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>○地域との交流○保幼小中の連携、交流</p> <p>○保護者とともに子育てを考えた連携○チェリークラブとの交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「親子サッカー教室」と「絵本の読み聞かせ」の家庭教育講座を行い、子育てを楽しむきっかけ作りができた。 ・園児とチェリークラブ(遊び会)の未就園児と一緒に戸外で体操をしたり、かけっこをしたり、人形劇を観劇したり、感染対策に努めながら交流することができた。 ・地域の方とのさつまいも掘り遠足や、花壇の修理、畑への腐葉土の運搬、たのし会とのやきいも大会で交流することができた。 <p>チェリークラブ(遊び会)のクリスマス会でも、地域の方のハンドベル演奏やサンタ役など連携した活動を行い、就園前の保護者と子どもが親しみを感じる取り組みとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保幼小中での公開保育を行い、日々の保育を振り返ったり、オンラインでの研修を行ったりして中学校区の子どもたちの課題を確認し合うことができた。 	

重点目標 5	教師の資質向上	4
主な方策 成果と課題	<p>○幼児の姿、発達に合った教育の充実</p> <p>○園内研修(合同研修・連携研修)を通して幼児の共通理解を図る</p> <p>○教材研究、環境設定の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の幼児の姿から、興味、発達に合わせた教材を話し合い、研究に努めた。コロナ禍の制限のある時期を避けて実施方法を工夫し、幼児に経験させたい活動を保障することができた。 ・大学連携研修などの機会を通し、一人一人の幼児の心の動きや姿を細やかに捉えられ、日々の保育につなげることができた。 ・園内研修では、幼児の遊びの写真を活用し、実践検討や日々の記録の振り返りを通して幼児理解を深めることができた。コロナ禍のため、計画していた他園との合同研修や連携研修が実施できなかった。今後は、保幼での連携研修を取り入れていきたい。 	

2 改善方針

<p>重点目標 1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育アンケートの結果では、「体力がついた」「体を動かして遊ぶことが好きになった」の項目において、100%の保護者が「そう思う」「おおむねそう思う」という評価が得られた。来年度も体づくりを意識した巧技台等の様々な教具の活用を継続していく。 ・少人数の為、教師が幼児の仲間の一員となり遊び込むことを心がけた。その為、幼児が教師を求める機会や、教師の関わりが必要な場面が多くなった。さらに、幼児同士が主体的に表現し、考え合えるように手立てを考慮する。 <p>重点目標 2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飼育、栽培活動は、ウサギのゲージの掃除や畑の水やりなど、幼児の負担にならないように考慮しながら、日常的な活動へつなぎ、自ら進んで行えるようにしていく。 ・基本的な生活習慣の自立や「自分から進んで行く」主体性を培えるよう、家庭と連携しながら引き続き取り組みをすすめる。 <p>重点目標 3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も、幼児自ら意識して挨拶を行えるように保護者と連携して挨拶運動を継続し、大人が率先して挨拶していくことで、幼児にも自然と挨拶を交わす心地よさが感じられるようにしていく。 ・年度初めに、互いの育ちにつながるような保幼交流の年間計画を立て、活動を継続して行う中で集団経験を豊かにする。こども園化に向け、保幼のカリキュラム等のすり合わせを行っていく。 <p>重点目標 5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内研修や教材研究、指導主事訪問などを通し、職員の更なるスキルアップを図る。また、研修から学んだことを活かしながらコロナ禍での教育活動を工夫する。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐中央幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	幼児の興味や関心・意欲につながる環境構成、クラスづくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の表現や言動を丁寧に受け止め、共に遊ぶ中で一人一人の幼児の遊びへの興味・関心を探り、幼児理解に努めた。教師との信頼関係を基盤に幼児同士が遊びの中で共感し、つながりが広がり深まっていき、より意欲的に遊ぶ姿がみられるようになった。 ・ コロナ禍ではあるが、昨年の経験を活かし保育の充実に努めた。保護者の理解と協力を得て、日常の保育や大きな行事を無事に終えられた。 ・ 主体的に遊ぶ環境構成についてはそれぞれの学年で、幼児の姿や興味・関心に合わせて行ってきたが、園全体で検討する機会が少なかった。次年度はより視点をより具体化し、計画的な園内研修を行い、幼児が主体的に遊ぶ環境構成をしていきたい。 	
重点目標 2	豊かな人間性および人とのかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度は混合クラスとなり異年齢で交流する機会や様々な職員とのかかわる機会をもつことができた。好きな遊びをじっくり楽しむ姿はあるが、自分の思いを出すことをためらう姿があったので、教師も一緒に遊びながら気持ちを受け止め、聞いてもらえる心地よさを味わい、安心して自分の思いを表現することができる雰囲気づくりを心がけた。 ・ 遊びの充実を図り、感じたことを言葉や体で表現する姿を受け止めてきたことで、幼児一人一人が生き生きと遊ぶ姿が見られ、表情が豊かになり、友だちとのやりとりを楽しむ姿につながった。自分の思いを出し、相手の思いに気づいたり、互いの気持ちを出し合ったり、気持ちがぶつかり合ったりする場面に丁寧にかかわってきた。4・5歳児それぞれに、人とのかかわろうとする姿がみられるようになった。 ・ 自分から発言する、表現する『話す・伝える』ことは力がついてきたが、友だちの思いを『聴く』、『気づく』という力がより身につく取り組みを次年度は考えていきたい。 	
重点目標 3	保護者・地域(保幼小中)との連携および職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かして遊ぶことが、体の成長や意欲的な姿につながり、身の回りのことを進んでしようとする気持ちが育つなど、幼児一人一人の生活のリズムに遊びや友だちとのかかわりがつながっていることを保護者とともに考え園と家庭が連携して取り組んできた。 ・ 他校園との交流の機会は少なかったが、畑の活動などで地域の方に支えてもらっていることを感じる事ができた。保育園との交流では、同じ歳の友だちとつながりをもつことができ、幼児たちにとって同じ地域にいる人たちとのかかわりが刺激となった。今後もコロナ感染対策を行いながら日常的な交流を図り、新しい形での交流も考えていきたい。 ・ 教師の資質向上について公開保育が行えず残念であったが、園内で幼児理解について話す機会を多く持ち、共通理解を図るように努めた。しかし計画的・継続的に取り組むことが難しかった。次年度は視点を更に焦点化し研修を深めていくようにする。 	

2 改善方針

- ・ 幼児が興味、関心のあることは何かを探りながら環境構成をしてきたが、4・5歳児それぞれの姿からどのような活動や環境が必要なのか、より具体的に考えていきたい。「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」をめやすとし、幼児の育ちについて実践記録をもとに園内研修で検討するなど、職員間で共通認識を深め、保育の質を高めていく。
- ・ 今年度は幼児一人一人の思いが表現・表出できるように努めてきた。引き続き幼児が伸び伸びと表情豊かに人とかかわる力を育みながら、友だちの言葉に耳を傾ける姿へつなげていく。
- ・ 来年度もコロナ感染対策を行いながら、地域の人たちとの交流の機会、保小中との交流をどのような形で行うか、職員間や関係機関とで連携をとりながら年間を通してできることを検討する。また保護者にも日常の子どもたちの姿や育ちをどのように伝えていくかについて考えていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	意欲的に遊ぶ中で、気づいたり考えたりしながら、『生きる力』『共に生きる力』の基礎の育成をはかる。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園舎設備工事やコロナ禍など、通常とは違う限られた環境の中でも職員間で話し合い、工夫しながら環境を整えるようにした。また教材環境の工夫に努め、子どもの「やってみたい」という意欲や友だちと試行錯誤し遊びを進めていこうとする気持ちが高まった。 ・人的環境や物的環境の大切さを発信し、保育者が子どもの思いを受け止めることで、友だちとの関わりの中で自分の居場所が感じられるようにした。そうすることで、自分の思いを安心して出そうとしたり、友だちの思いを聞こうとしたりする姿へと変わっていった。今後も一人一人の子どもが友だちの思いに気づき、気持ちを通い合わせながら遊ぶ楽しさを感じられるようにする。また、言葉での表現だけでなく、様々な方法で感情表現が伝えられるように関わりたい。 ・日々保育の中で自らを振り返り、小さなことも職員間で話すようにしてきた。子どもたちが主体的に行動するように保育者自身の関わり方を意識することで子どもたちも自ら考えて動こうとするようになってきた。 	
重点目標2	生活リズム向上の取り組みとして、食育と基本的な生活習慣の確立を重点的に取り組む。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・手の洗い方の掲示物を貼り出すなど環境を工夫し、手洗いうがい、衣服の着脱など、一人一人が自らやろうとしていることを認めたり、見守ったりする関わりを大切にしてきた。生活の中でできるようになったことを保護者との会話の中で共有し、家庭での様子も知ることで一人一人に合った関わりができた。 ・野菜の収穫を通して野菜に興味を持ったり、食べてみたいと思える子が増えた。 ・給食試食会が実施できない状況にあったが、給食の展示を見て給食について親子で語り合う姿が見られた。また、季節・文化・行事食の由来や込められた願いの発信を今後も継続したい。 ・子どもの生活状況調査から早寝早起きに取り組む規則正しい生活を送ることが定着している。一方で年齢が上がるとビデオ・テレビの視聴の時間が長くなる傾向があるので、便りや生活チェック表を活用したり、絵本に親しむ機会の大切さを継続的に伝えていく。登園の遅い子に対しての声掛けを継続し、早起きを定着に結び付ける。 	
重点目標3	保護者・地域との連携を推進し、こども園について理解につながる情報発信を具体的におこなう。	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・第一に保護者の思いを受け止めるように努めた。 ・コロナ禍であったため、行事は三密回避、時間短縮など制限しながら行った。地域の方との交流や地域に出かけていくことも少なかったため、園内での遊びの環境整備に努めた。日々の保育は、写真の掲示を増やし、園での子どもの様子や活動内容を伝え、保護者と共有できるように努めた。 ・便りやHP、個々への丁寧な声掛けを通して、子どもの姿や園の取り組みを伝えてきたが、実際に子どもの姿を見ていただく機会が少ない分、より伝わりやすい発信方法を今後も工夫していく。 ・コロナウイルス感染拡大防止のため、保育参加後の懇談が持てなかった。そのため保護者同士が繋がりにくい状況であった。保護者同士も繋がれる方法を工夫していくことも課題である。 	

2 改善方針

- ・子どもの意欲や体づくりにつながる遊びの充実のため、職員間で連携をとり計画的に環境構成の工夫をしたり、教材研究をすすめる。また、コロナ禍の中で行事が縮小されたり、地域交流がなくなったりなどしているので、この状況の中でも様々な経験ができるよう、臨機応変に保育できるようにしていく。
- ・生活リズムを整えることが後の子どもたちの成長発達につながることを保護者と共に考えられるように今後も家庭と連携を図るとともに、子どもにも丁寧に伝えていく。
- ・保護者の願いを丁寧に聞き取るとともに、HPや写真掲示などで子どもが遊びを通して何を経験し学んでいるのかを伝えていけるように発信方法を今後も工夫する。
- ・園内研修の充実のために、遊んでいる一場面を写真に撮り、それをもとに研修することで子どもが何を楽しんでいるのかを学んだり、保育者の手立てに活かしたり、各学年の子どもの理解につながるように研修方法を工夫する。

自己評価書

四日市市立 笹川中央幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	4
主な方策 成果と課題	<p>・ <u>生活リズムを整える</u> ○生活習慣が定着するように、毎日ていねいにかかわってきた。自分のことは自分でしようとする姿が育った。</p> <p>・ <u>健康な体をつくる</u> (A評価 そう思う・B評価 おおむねそう思う) 〈園評価アンケート〉 体力がついたと思いますか？ A評価79% (A・B評価100%) 体を動かして遊ぶことが好きになりましたか？ A評価100%</p> <p>○コロナ禍で園外に出る機会が減ったが、その分園内での戸外遊びや運動遊びの充実に力を入れた。体を動かす楽しさを味わえるようになったり、苦手なことにも挑戦しようとする意欲が育ったりした。</p> <p>・ <u>食育活動の推進</u> 〈園評価アンケート〉 嫌いな食べ物でも食べようと努力する姿が見られますか？ A評価43% (A・B評価97%)</p> <p>○偏食の幼児が多かったが、栽培活動(野菜や米)や給食を通して、食べ物に関する関心や食への幅、食べ物を大事にする気持ちが広がった。 ●コロナ禍のため、調理の体験ができず、園でとれた野菜を持ち帰った。家で料理するようにお願いしたが、調理法や食べ方も伝えたとよかった。</p>	
重点目標2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	4
主な方策 成果と課題	<p>・ <u>多文化共生教育の推進</u> ○一人一人のルーツを大切に、一人一人を大切に保育をしてきた。言葉による伝えあいは難しいが、表情や身振り、手振りで伝えようとする力がついた。遊びの中で、子ども同士がつながりあい、楽しい気持ちを共有していくことで、子ども同士わかりあえる姿が増えた。</p> <p>・ <u>認められる経験</u> ○友だちの違いを認め合えるように、まず、認められる経験を大事にした。遊びや生活で感じたことを共有し、人とかがかわることが心地よいと感じるようになった。たくさん認められる経験をすることで、自信へとつながっていった。</p> <p>・ <u>異年齢交流</u> ○コロナ禍で交流が難しかったが、可能な時期には行事や日々の生活の中で意図的に交流の場を作っていた。5歳児は思いやりの気持ちが育ち、4歳児は、憧れや期待を持つことができた。</p> <p>・ <u>特別支援教育の充実</u> ○一人一人にあった支援の仕方を考えて取り組んだ。視覚支援やわかりやすい日本語を使い、どの子にとっても居心地のよい場となるようにした。</p>	

重点目標 3	豊かな生活経験をし、聞く・話す・伝える力をつける	4
主な方策 成果と課題	<p>・ <u>心が揺さぶられる体験の充実</u> 〈園評価アンケート〉 園の生活や遊びが楽しいと言っていますか？ A評価86% (A・B評価100%) ○心が動く体験や遊びを通して、自分から主体的に遊べるようになった。 ○生き物とのかかわりの中で、不思議なことに会い、驚いたり、感動したりする体験をたくさんすることで、教師や友だちに伝えたい、見せたいという気持ちが育った。</p> <p>・ <u>思いを表現する</u> 〈園評価アンケート〉 自分の思いを体や言葉で表現するようになりましたか？ A評価72% (A・B評価93%) 人の話を聴こうとしますか？ A評価55% (A・B評価97%) ○遊びを通して、相手に伝えたい思いが強くなり、何とかして伝えようとする事、相手に伝わった喜びを味わうことで、伝える力が育った。 ○言葉で伝えるとともに、具体物や表示など視覚的に知らせることで、日本語がわからない幼児も、少しずつ聞こうとする力がついてきている。 ●言葉の違いから、聞こうとする態度を育てることに難しさがある為、適応指導員との連携を密にとる必要がある。</p> <p>・ <u>読み聞かせの取り組み</u> ○毎日の読み聞かせを通して、本を夢中になって見る幼児が増えた。また、適応指導員によるポルトガル語、英語での読み聞かせを行い、いろいろな言語で聞く経験ができた。 ●コロナ禍のため、年間を通しての絵本の貸し出しが行えなかった。</p>	

重点目標 4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
主な方策 成果と課題	<p>・ <u>園からの情報発信</u> 〈園評価アンケート〉 あなたは園の教育内容に満足していますか？ A評価93% (A・B評価100%) ○毎日の様子を写真掲示し、その日の保育内容を伝えた。写真を見ることで、園での様子がよくわかり、親子や保護者同士の会話につながった。 ●送迎時に会えない保護者に対して、ホームページで園での様子を伝えるようにした。コロナ禍で、家庭訪問が難しく、会って話す機会が減ってしまった。連携の工夫の必要がある。</p> <p>・ <u>保護者同士のつながりの場</u> ○保護者交流会を開き、自国の文化や食べ物など紹介し合うことができた。 ●コロナ禍のため、茶話会、日本語教室がなかなか開けなかった。保護者同士つながる機会に大切にしていきたい。</p> <p>・ <u>職員同士の連携</u> ○職員の人数が多い分、連携を密にとり、共通理解を図ることで、みんなが同じ方向で子どもたちとかかわることができた。</p> <p>・ <u>地域との防災教育</u> ●今年はコロナのために中止だった。今後も積極的に連携し、安全な園づくりをすすめていく。</p>	

- ・経験不足を埋めていくために、一人一人の様子に合わせた、保育内容を考えていく。心動く経験からやってみたい気持ちを育てていく。
- ・適応指導員に、今この子にどのような力をつけたいかを伝え、どのようにかかわってもらうか、細かく伝えていく。
- ・やさしく、正しい日本語で話すように意識して話す。
- ・送り迎えに来られない家庭のために、電話で様子を伝えたり、ホームページの更新を頻繁に行ったりする。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重西幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○手洗いうがいの必要性を伝え、数を数えながら洗ったり、手洗いの歌を歌いながら洗ったりするなど、楽しくできるような工夫をしてきた。その結果、自らしようとする姿につながった。一方で家庭では習慣になりにくい姿もあり、保護者に園での子どもの姿や取り組みを伝え、家庭と連携をとり進めていく。</p> <p>○幼児の発達に合わせ、アスレチックコースなど園庭に幼児が遊びたくなるような環境を設定したことで、興味を持ち、やってみようとする幼児の姿につながった。</p> <p>○自分たちで育て、収穫した物をみんなで食べる経験を通して、苦手な物でも食べてみようとする姿が見られた。今後、園内の畑についても計画を立て、より幼児が栽培活動や食に興味を持てるような環境づくりをしていく。</p>	
重点目標2	コミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○思いを表現することに対して、どのように表現したらよいのか分からない幼児の姿があった。まずは教師も一緒に思い切り遊びを楽しみながら、一人一人の思いを受けとめ、周りの幼児にも知らせるようにしていった。その中で、教師や周りの幼児に受けとめてもらえる心地よさを感じ、自分の思いを表現できるようになった。さらに友だち同士での思いの伝え合いができるように、発達に合わせたかかわりを意識していく。</p> <p>○大型絵本・月刊絵本・絵本の貸し出しなども活用し、絵本や物語に親しむ機会を多く取り入れてきた。絵本が好きになり、発表会ではイメージを膨らませ、なりきって表現することを楽しむ姿につながった。</p> <p>○生活や遊びを共にする中で、4歳児は5歳児への憧れの気持ちが持ち、5歳児は4歳児への思いやりの気持ちが育った。学年ごとの活動を保障しつつ、混合クラスでの活動の時も、ねらいを持って保育していく必要がある。</p>	
重点目標3	学びにつながる意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○お店屋さんごっこや発表会の劇あそびなど、幼児の興味や「やってみよう」という思いを教師が捉え、思いが実現できるように援助したことで、友だちと相談したり、友だちと一緒に遊びを創り上げていく楽しさを感じたりすることができた。一方で、自らの遊びにおいては環境に工夫が必要であったと感じることもあり、幼児が意欲的に夢中になって遊び込めるような環境を考えていく。</p> <p>○モルモットの世話や花や野菜の栽培などを通して、動植物に親しみ、思いやりの気持ちが育った。視覚的に気付きやすく興味を持ちやすいような場所に設定したり、当番の仕事にしたり、ペアで取り組むようにしたりするなど工夫してきたことで、幼児がより関心を持つ姿につながった。今後も幼児が興味を持てるような環境や教師のかかわりを工夫していく。</p>	

重点目標 4	家庭や地域・小学校・中学校と連携した園づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○クラスだよりや掲示物などで写真を用いて、子どもたちの様子を分かりやすく保護者に発信することができた。発信するだけでなく、保護者の思いも聞きながら、保育を進めていくことを心掛けたい。</p> <p>○コロナ禍で交流が難しい中、隣接する小学校のマラソン大会の応援、図書館での絵本の貸し出しなど施設を活用したことで、小学校を身近に感じ、就学への憧れの気持ちにつながった。また、花の苗植えや焼き芋、門松作り、カブトムシの幼虫の育て方など地域の人と交流する機会も持つことができた。幼児が様々な人や地域と出会う機会となり、豊かな体験をすることができた。今後も計画を立て、地域や小学校だけでなく、中学校とも施設を活用した交流などできることを考えていきたい。</p> <p>○園開放の内容充実にも努めたことで、あそび会に来園する未就園児の数が増え、子育てについて相談をする保護者の姿も見られた。</p>	

2 改善方針

<p>○手洗いうがいをすすんでするようになったかという項目において、手洗い・うがいの定着は難しかった。基本的な生活習慣の定着に向けて、保護者に手洗いうがいの大切さを発信したり、園での子どもの姿を伝えたりしながら、園と家庭が共に連携しながら継続して取り組めるようにする。</p> <p>○自分の思いを表現することに自信を持ってない幼児や、どのように表現したらよいか分からない幼児に対して、一人一人の幼児の発達に合わせたかかわりや援助を意識していく。また、混合保育において学年ごとの活動も保障しつつ、集団での経験も大切に、ねらいを持って保育する。</p> <p>○継続的に遊びを楽しんだり、幼児自らが遊びを深めていけるよう、また幼児の興味や発達・時期にあった遊びの環境設定など、幼児が主体的に遊べるように工夫をしていく。</p> <p>○コロナ禍でもできることを考え、安全に配慮しながら、地域・小学校・中学校との交流を積極的に行い、地域に親しみを感じる機会を増やす。</p>

【様式1】

自己評価書

四日市市立 楠こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	・ 基本的な生活習慣の自立 健康な身体づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 挨拶は保育者からの積極的な声掛けや保護者の理解・協力もあり、習慣づいてきた。・ 日々の丁寧な指導や援助の積み重ねにより、子どもが自信をもって取組み、意識を高め、生活習慣の自立を図ることが出来た。・ 2階建ての園舎や限られた園庭などの環境のもと、園庭の利用時間を分けたり、ホールや小ホールを活用することで発達や子どもの興味関心に応じた環境の中で十分に身体を動かして遊べるように工夫や配慮が出来た。・ 身体を動かすことが苦手な子どもに対しての働きかけには今後も多面的な工夫と配慮が必要である。	
重点目標2	・ 夢中になって遊ぶ活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 鬼遊びやごっこ遊びなど保育者も一緒に活動することで子どもの意欲を高めたりより興味を持続して繰り返し遊ぶことが出来た。・ 子どもの興味関心を探り、それに応じて環境設定を変えたり必要な材料や遊具を整えたりすることで遊びへの意欲を高め、子どもが自ら考え、遊びだせる配慮を心がけた。・ 友だちと一緒に遊ぶ楽しさは実感しているが、自分の思いが強くトラブルになることもあるので互いの思いに気づく経験の積み重ねが大切で今後も保育者の仲立ちが必要である。	
重点目標3	・ 一人一人が安心して過ごせる居場所づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・ 保育者同士が連携し、子どもや保護者の思いに共感し受け止めることを大切にしてきた。子どもや保護者との信頼関係を築くことで園が安心できる場になった。・ 担任をはじめとする職員全体で子どもの様子を共有し、一人一人が安心感を持って園生活を送れるように心がけた。・ 様々な家庭の状況があることから園での姿だけでなく家庭での姿も含めて把握していく必要がある。子どもの不安や葛藤に対して一人一人に応じたかかわりを行い、少しでも不安が解消されるように努めていきたい。・ どの子どもも安心して過ごせ友だちと繋がれる場としての環境づくりは今後も工夫が必要である。	

2 改善方針

- ・挨拶や生活習慣では一人一人が自らやろうとする姿を見守ったり認めたりするかかわりを大事にし、自信に繋げたり友だちにも広がるようにする。
- ・固定遊具を使った遊びやサーキット遊びなど計画的に取り組み、年齢や発達に応じた健康な身体づくりに繋げる。
- ・竹馬の取り組みの時期や設定する数など、子どもの人数や発達に応じて検討する。
- ・開園1年目の今年度の取り組みを継承し、子どもや保護者から信頼され、困ったことや悩みなど率直に話せる関係づくりに努め、園が安心できる場となるようにする。